放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果

公表日：令和８年３月１１日　　放課後等デイサービスＢａｌｌ－Ｄａｙ

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	スペースだけをいえば設置基準の２倍以上はあります。静かな環境で学習に集中できる相談室に加え、一人になれゆっくりできる空間として「カームゾーン」を新たに設けました。また、以前課題として出ていた冷暖房効率も移転やこたつの設置などにより解消できたと考えています。	80%・０％・７％・13% ・本人からは快適に過ごせていると聞いている・ ・定期的に外出してくれるので体が動かせる。 ・落ち着いてすごせているときはいいと思うが、自分が不安定な時は騒がしく感じることがあるよう。	ほとんどの日、近くの公園に行けるようスタッフの体制の整備もおこないました。騒がしさが苦手というスタッフ・児童がいるため、子どもたち同士で注意しあえていると思いますが、気になるようであれば、左記のスペースを利用するなど声かけをしますので、必要なときは言うようにお声かけください。
	2	職員の適切な配置	常勤児童指導員を新たに１人雇い入れ、どの時間帯も安定した支援の体制を整えることができたと考えています。加えて、課題だった離職もこの２年は０人で推移できています。	87%・０％・0%・13% ・よく気を配って見守っていただけていると感じる。	最寄りのバス路線のダイヤ改正（減便）を受け、業務の効率化を徹底的にはかってきました。加えて、スタッフの人となりをできるだけお伝えできるように努力してまいりました。引き続き、安心してご利用いただけるように努めてまいります。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	毎日確認するその日の予定・コンディションボード等のスチールボード、行事予定や各種企画などのお知らせを掲示するコルクボード、虐待やヤングケアラーなどの啓発ポスターはロッカー背面にと、用途に応じて分けるといった掲示の工夫をしています。TEACCH の手法だけでなく、一般的なスケジュール管理に応用できるよう工夫をしています。	87%・０％・０％・13% 掲示など情報が目に入りやすく、本人からしてもふと見たくなるものが多いと感じる。	引き続き、住環境に溶け込み、かつ子どもたちが自身の生活のなかで再現しやすいような構造化や情報提供に努めています。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子どもたちの活動に合わせた生活空間の確保	上記１に同じ。カームゾーンやこたつの設置など、より快適に過ごせるよう変更を加えました。	87%・０％・0%・13% ・支援記録を見させてもらって過ごしている様子が目に浮かぶ。	引き続き、音・光・においなどの五感が快適で満たされるように努め、すべての子どもたちが過ごしやすい生活空間となるよう今後も努めてまいります。

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
業務改善	1	業務改善を進めるためのＰＤＣＡサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	「一日として同じ日はない」をキャッチコピーに、その日そのときに応じた課題設定と、スタッフ間の情報共有・連携ができるよう模索し、繰り返し修正して、今に至っています。		昨日やってみてうまくいったことが今日もうまくいくとは限りません。と同様に、今日がうまくいったからといって、明日以降もうまくいくとも限りません。常に状況・ニーズ・課題を的確に把握し、よりよい支援と体制を構築してまいります。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在は実施していない。		第三者による業務改善のためのアドバイスは必要に応じて検討します。
	3	職員の資質の向上をおこなうための研修機会の提供	子どもたちの課題を通して、より専門的な見地から行動分析することをこの一年はたくさんしました。		引き続き、最新の情報や、多様な観点の知識を取り入れるため、オンラインによるものも含め、必要に応じて、研修の機会を確保していきます。

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切におこない、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえでの放課後等デイサービス計画の作成	この項目については変わるものではなく、日々の一人ひとりの子どもたちの様子や発言をできるだけ記録し、スタッフ全員で共有しています。また、学校等の関係機関からの情報・保護者からの情報や要望などを踏まえた目標設定に努めています。加えて、この直近の半年は子どもたちの「ジブンを変えたい」という声をスモールステップの目標に落とし込み、かなり積極的な支援に取り組んできました。	93%・０％・０％・７％ 丁寧にヒヤリングをしていただきました。	昨年と同じ表記ですが、すでに多くの子どもたちに当事業所を利用しての効果や変化・成長を実感いただいています。数値で測るものがないため、明確にお示しができないのが残念です。例えば、過去に不登校や登校渋りで相談を受けた子どもたちのうち、現在、96%が進学に向けた準備や一部時間の登校・別室や適応指導教室などを含むジブンのスタイルでの登校をしています。私たちが、学校に行くように促したものではなく、私たちの支援の結果、子どもたち自身の力で行動したものです。これからも、学校生活や将来に向かう気持ちがよりよいものとなるよう計画の作成と支援に努めまいります。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた放課後等デイサービス計画の作成		86%・０％・７％・７％	
	3	放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定および具体的な支援内容の記載			
	4	放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	過去イチ、真正面から子どもたちと向き合い、支援ができた一年でした。	93%・０％・８％・７％ 特性に応じて気配りいただいたり、できることを提案いただいたりしていると思う。	自身の特性を理解でき、このままではいけないと感じることができているお子さんについては、必要な支援ができているのではないかと自負しています。引き続き、すべての子どもたちが当事業所に通所する意義を実感できるよう努めてまいります。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	コミュトレについては全スタッフで試行錯誤を加え、よりよい支援と、保護者への的確な情報共有ができるよう議論を重ねています。夏のプロジェクトを始め、各種イベントも子どもたちの声を取り入れつつも、しっかり支援（般化）できるよう検討を重ねたうえで実施しています。		スタッフ一人ひとりが自分事としてとらえ、意見の表明や具体的な日々の支援に落とし込めるよう努めています。引き続き、ブレることなく、これらに取り組んでまいります。

	6	平日･休日･長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・ここ数年はかなりの施策をおこなっています。 ・平日は心のエネルギーをしっかりと満たすこととコミュニケーションスキルを高めることに注力しつつも、事業所内では子どもたちが主体的に動ける環境整備に努めています。また、明日の学校生活・家庭生活につながる活力となるよう、子どもたちが自身の力で気持ちの整理ができるような小さな仕掛けをたくさんしてきました。 ・休日は日頃の関係性をより実生活へと般化（応用）すべく、平日とは違う環境の提供に努めています。 ・夏休みは「夏のプロジェクト」と銘打ち、みんなで話し合って、物事を達成していく取り組み（子ども縁日）をしました。この過程でも、日頃培ったコミュニケーションスキルや友達関係が大いに般化（応用）され、利用児童が自身で成長を感じられるに支援をしてきました。 ・新学期の始まりは、学校がしんどいと感じる子どもたちにとっては大きな壁が立ちはだかるようなものと理解し、スムーズに移行できるように、毎回複数の仕掛けを用意して実施しました。１つは長期休暇終盤から新学期当初にまたがる楽しいイベントを実施しました。令和７年度であれば、９月６日の万博訪問がまさにこれに当たります。もう１つは恒例となっている「お楽しミニくじ」で、一つひとつは小さいミッションばかりですが、積もり積もれば、ジブン自身や学校生活と向き合うことができ、気持ちの整理がしっかりとできる仕掛けをしてきました。		一日として同じ日はないわけで、当事業所の理念「This day is a mearningful day for that day.」をスタッフ・子どもたちの皆が意識をして、より有意義な日々にしていただければと考えます。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	事業所内での活動は子どもたちが主体的に動けるよう様々な機会の提供と適切な情報の伝達に努めています。このほかにつきましては、季節ごとにある程度決まっているものもありますが、そのときどきの利用児童や集団のニーズに応じて、都度検討して実施に結び付けています。	100%・０%・０%・０% ・いつも様々な活動やイベントを考えていただきありがとうございます。子供にとっていい経験になっていると思います。 ・あまり参加はできていませんが、おそらく利用されているそれぞれの子どもの様子に合わせて楽しそうなイベントを沢山企画していただき、ありがたく思います。	スポレクを通して関係性を深めるきっかけを作り、コミュトレで必要なスキルを形成し、その他の場面で般化（応用）するという当事業所の支援方針を体現するためにも、その時々の「旬」なものを提供できるようこれからも努めてまいります。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	確認の徹底は、最善の支援をおこなうためにも、スタッフの働き甲斐のためにも、絶対に必要なもので、あえて書くほどのことではありませんが、前日の終礼で具体的な内容や支援方法を検討し、当日の朝礼でその日の利用児童の詳細と活動の流れやスタッフの動きなどを検討・共有しています。この情報は Google スプレッドシートにてスタッフ全員で共有し、いつでも確認できるようにしています。パートタイムのスタッフについても出勤時に確認し、勤務のない日の出来事を業務日誌で確認するように促しています。		この項目は不変のものであり、引き続き、的確かつ効率よく情報共有ができるよう努めてまいります。
	9	支援終了後における職員間でのその日おこなわれた支援の振り返りと気づいた点などの情報の共有	上記８と同様に、情報の共有は最善の支援をおこなうためにも、スタッフの働き甲斐のためにも必須のものと考えます。支援実施中も店内カメラやグループラインなどを適切に使用し、些細な情報も共有に努めているほか、支援終了後には毎日１時間かけてふりかえりをおこない、一人ひとりの子どもの活動内容や発言などを共有しています。そのうえでの気づきを共有し、支援のさらなる充実のための検討をしています。		スタッフによるふりかえりは、全スタッフが発言できる機会を広げるとともに、一人ひとりの子どもたちのエピソードをより共有できるよう、再三にわたって修正を加え、今に至っています。この情報共有が当事業所における財産であり、今度もより充実した時間となるように努めてまいります。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証･改善の継続実施	日々の記録は、同時編集ができる Google ドキュメントを使用しておこなっています。利用児童単独ではなく、集団内においての立ち位置や関係性が分かるように工夫をしてきました。また、最寄りバス路線のダイヤ改正（減便）を受けて、日々の業務での残業をしないよう、共有できるところは共有して効率よく進めるようにしています。あわせて、インカム（無線）の音声データや店内カメラの映像データなどを用いて、より正確な記録ができるように努めています。		過去のコメントと同じです。Google ドキュメントを利用することで過去の情報を検索しやすくなったことや、インカムの音声データとカメラの映像データによりヒヤリハットの検証がしやすくなったことで、より充実した支援や活動計画に生きています。これらを活用して、これからもよりよい支援と活動計画づくりに努めてまいります。
	11	定期的なモニタリングの実施および放課後等デイサービス計画の見直し	全員共通で春・秋におこなう形にしています。保護者への聞き取りは事前に入力いただき効率化をはかっています。利用児童への聞き取りは具体的に学校生活の現状や今後の目標を聞き、より変化を実感したり目標を明確にしたりできるようにして実施しています。		引き続き、子どもたち自身が変化や成長を実感でき、自信につなげ、今もしくは将来の学校生活を前向きにとらえることができるよう計画と支援の充実に努めてまいります。

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	当事業所の利用児童の 95%はセルフプランであり、相談支援事業所を通しての利用児童は５%です。彼らについてサービス担当者会議の必要があれば参加して連携をしていく用意があるのですが、現在、その必要性がないため、実施していません。		学校やスクールソーシャルワーカー・教育委員会、医療、行政との連携は変わることなくかなり密におこなっています。日々の利用状況の情報共有や、家庭を含む支援の必要性の共有、学校等での指導の参考となる特性理解について共有を頻繁におこなっています。また、不登校児童で希望された方には出席認定もしてもらっています。これからも、保護者の求めに応じて、連携をおこない、支援のさらなる充実をはかっていきます。

	2	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	当事業所は小学４年生以上を対象としているため、この項目には該当しません。		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な就労移行のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	学校卒業のタイミングでの利用終了のお子さんがいないため、この項目には該当していません。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や専門機関での研修の受講の促進	上記「業務改善の３」と同様に、研修の機会があれば、機会の提供をしています。		引き続き、研修等の機会があれば、情報提供をおこないます。
	7	放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	当事業所では実施していないし、その必要性もないと考えています。	27%・６%・20%・47%	当事業所は地域や様々な団体と、年代を問わない交流を積極的におこなっています。それは障害の有無ではなく、いろんな人に必要とされている「自己効力感」を高めるものであり、他者と関わることの楽しさを子どもたちに感じてもらうものです。国および自治体が求める趣旨と異なるため、今後も左記の限定された交流は実施しません。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	塩屋撤退から１年半が経ちましたが、未だに塩屋のイベントに参加しています。その甲斐あって、「〇〇といえばBall-Day」といったイメージが根付き始めています。 現在の千代が丘では本年は何もできませんでしたが、公園に遊びに行った際には、幼いお子さま連れの方や地元の小学生と自然な交流ができています。		この項目も変わるものではありません。当事業所の支援方針を理解いただき、まだ見ぬ、学校がしんどく困っている子どもたちとつながるため、また、自然な交流ができるよう、様々な企画を実施していきます。あわせて、地域の行事や事業所説明会への参加、地域の情報誌や当事業所ホームページ等を通した情報発信についても、引き続き積極的に取り組んでまいります。

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	お問い合わせいただいたときや契約の際にお伝えさせていただいています。	93%・０%・０%・７% 重要事項説明はしっかりとお伺いしました。	引き続き、丁寧な説明に努めてまいります。
	2	放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	将来の姿を思い浮かべながら、今しておくべきことを説明しています。	73%・７%・７%・13%	引き続き、将来に対するイメージがふくらむような説明に努めてまいります。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施	当事業所は保護者の支援力向上そのものを目的とした支援はおこなっていません。しかし、思春期や障害特性・進路などの相談ごとについては丁寧に対応しています。	33%・33%・７%・27% ・問題行動があった時のアドバイスをしていただきましたが、プログラムとして実行されているのかがわかりません。 ・常日頃、本人の生きやすさや親の安心につながるようなアドバイスをいただくことができ、助かっています。	ペアレントトレーニングについては今後もおこなう予定はありません。しかし、家庭での子どもたちとの話題提供や、進路や学校生活などの相談ならびに選択肢などの情報提供については、これまでどおり丁寧に取り組んでまいります。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	当事業所が目指すのは、当事業所で身につけたスキルを学校生活に般化（応用）すること。そのために、当事業所内での他利用児童への関わりや集団内での立ち位置・関係性がイメージできるように今年度も改良を加え、お伝えしています。	80%・７%・13%・０% いつも支援記録を丁寧に記入いただいています。ありがとうございます。	当事業所の支援は具体的な数値であらわすことができるものではないため、できるだけ子どもたちにまつわるエピソードを伝えることで、変化を感じていただけるよう取り組んでいます。あわせて、業務効率化の難しい判断を迫られることはありますが、適宜適切な情報提供ができるように今後も努めてまいります。
	5	保護者から子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談をいただいた場合には鋭意努力をしています。利用児童から親子関係の相談を受けることもあり、必要に応じて、関係機関とも連携を密にして取り組んでいます。	40%・13%・33%・13% ・利用し始めたばかりなので、これから追々支援頂けるとありがたく思います。 ・他の人はわかりませんが、定期的な面談はなかったと思います。 ・要望はないのでなくても構わない。 ・中学進学を控え色々と目先のことに不安が多い中、いろいろな選択肢があることをアドバイスいただくことができています。	モニタリング時期以外のやりとりは支援記録が中心となっていますが、相談もけっこうな頻度でお受けしています。多くは当事業所内の他の児童との関わりではありますが、学校のこと・進路のことなどもあります。引き続き、ご要望に応えられるように努めてまいります。

	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者・家族を招いての活動は本年度も実施しました。	33%・14%・20%・33%	「はい」とお答えいただいた方がとても少なく残念なところですが、毎年実施しています。しかし、いつも参加いただく方は少数です。昨年と同じ表現で申し訳ありませんが、本事業で使える時間は学校ほど多くないため、今後も保護者に対してオープンにする行事よりも、地域に出て、様々な人と交流する活動を中心に据えていきます。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知および苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情か意見・要望等の区別なく受ける体制はあります。その日のうちにスタッフ間で共有し、必要があれば、関係機関に相談するなど適切に対応しています。	40%・０%・13%・47% 色々困りごとが多く申し訳なく思いますが、その都度、疑問や困りごとにご対応くださり助かっています。	左記のとおり、苦情・意見・要望、その他悩み・不安などありましたら、お電話・メール・ラインもしくは直接おうかがいします。お気軽におっしゃってください。
	8	障害のある子どもや保護者との意見の疎通や情報伝達のための配慮	例年と同じく、話をしたい場合には相談スペースを使ったり、送迎ルートを変更したりして、話しやすい雰囲気づくりをしています。	87%・０%・13%・0% いつも細やかな配慮をありがとうございます。	引き続き、少しでも多く子どもたち・保護者のニーズ・不安・悩み・愚痴などを聞けるよう、またそれらを日々の支援に反映できるよう努めてまいります。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定・連絡体制等の情報について子どもや保護者への発信	月に一度発行するニュースレターは、改良を加え、次なる活動により期待感を持てるように変更しました。	100%・０%・０%・０% ・いつも次の月の予定を、子ども以上に親が楽しみにしています。	例年に同じく、現在の利用児童・家族だけでなく、まだ見ぬ、利用者・家族や、似た悩みを抱える子どもたちの励みとなるよう情報発信は大切なツールと考えています。とはいえ、世の中は SNS から AI の時代へと移行しています。常によりよいものを求め、情報発信に努めてまいります。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	利用児童同士の連絡先交換の際の責任の所在の明文化・生理用品の取扱いなど、過去におこなった対応を継続しています。請求書等についてはオンラインで完結できるように変更しました。	87%・０%・０%・13%	例年に同じく、管理は厳密に行いつつも、よりよいものを模索してまいります。

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	左のマニュアル・業務継続計画（BCP）も作成しています。BCP については、本年の南海トラフ臨時情報の際に、再検証を行いました。そして、職員はいつでも見られるよう事務室および休憩室に綴じたものを置いています。	80%・０%・７%・13% 利用開始時に説明をいただいたと思います。	必要な措置を講じていることを簡単ではありますが、契約の際にお伝えしています。しかし、その性質上、すべてはお伝えしたり、公開したりできません。ご理解いただけますようお願いします。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難・救出その他必要な訓練の実施	子どもたち自身が頭で考えて行動できるよう、危険個所を点数化したリストを作成し、子どもたちと周辺を見て回りました。それを踏まえて、避難訓練も実施しました。	87%・０%・０%・13%	学校と異なり、利用児童ごとに利用頻度が異なるため、全員が参加できるものではありませんが、防災も大切なライフスキルととらえているため、多くのお子さんが享受できるよう努めてまいります。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	一般的な内容の虐待防止研修だけでなく、「よりよい支援」を考えるための研修をおこなっています。あわせて、虐待防止委員会も開き、万が一の疑わしき事案発生時の体制などの確認もしています。		例年に同じく、毎日の支援後におこなっているふりかえりは、子どもたちの活動状況についての情報共有だけでなく、スタッフの子どもへの関わり方についても話すことがあります。いつでも、スタッフ間で話し合える雰囲気づくりに努め、今後も虐待のない事業所運営に努めてまいります。
	4	やむを得ず身体拘束をおこなう場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での放課後等デイサービス計画への記載	上記３と同様に、一般的な身体拘束についての研修だけでなく、「よりよい支援」を考えるための研修をおこなっています。		これまで、このことについて検討する必要はありませんでしたが、身体拘束の３原則（切迫性・非代替性・一時性）に触れ、その影響を考え、そういう事態につながることのないようスタッフ間で努めています。今後も変わることなく、よりよい支援を求めて取り組んでまいります。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者からの申し出に加え、本人が理解をしているため、当該児童が自身でも確認できるよう、おやつ等の保管および提供方法を見直しました。		引き続き、利用児童とスタッフの二重のチェックで事故が起きないよう、また当該児童も一緒におやつや食事が楽しめるようなメニューの準備などの対応に努めてまいります。
	6	ヒヤリハット事例集の作成および事業所内での共有の徹底	今年度も２件（サイクリング時に一時的に見失う・送迎停車時のもらい事故）の報告がありました。利用児童の目線に立って状況を整理し、再発防止に努めています。		これまでと同様に、該当する事例があれば、速やかに口頭と報告書により報告し、スタッフ全員で共有し、事故の原因究明と再発防止に努めていきます。

区分		チェック項目	現状評価 職員による評価です	保護者の評価 数字は左から順に はい・いいえ どちらともいえない・わからない コメントは原文そのまま掲載	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 保護者評価を踏まえ、 再度職員の話し合いにより設けた改善目標や今後の運営方針です
満足度	1	利用者は通所を楽しみにしているか		80%・０%・20%・０% ・行ったら楽しそうですが、人間関係で悩むこともあるようです。 ・特性からの気分のムラがあり、行けたり行けなかったりするので申し訳なく思いますが、色々とご配慮をいただき少しずつ自分の感情の揺れに向き合おうとしている様子には成長を感じます。	回答ありがとうございました。５年前の当事業所開設時に、利用を開始した当時小学５年生の子どもたちが昨年春に中学校を卒業しました。彼らは小中学時代、たくさんのしんどさを感じつつも、当事業所で自身の課題と向き合い、自身の手で進路を定め、つかみ取ることができました。今でもときどき近況を報告しに来てくれています。私たちが彼らと過ごして蓄えてきたノウハウは、再現性の高いものへと進化しています。とはいえ、利用児童が違えば、やるべきことも変わりますし、日々刻々と変化する社会情報を想えば、過去に甘んじることはできません。まずは、「なんでも言い合える集団」づくりに励み、個々の利用児童のスキルをしっかりと高められるよう精進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。
	2	事業所の支援に満足しているか		93%・０%・７%・０% いつも不安定な息子ですが、力になっていただきありがとうございます。	